

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿) 2024年度 Formula Classアドバンス修了式のご報告

拝啓 処暑の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当社の事業に格別のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、「ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿)」では9月4日 (水) に2024年度「Formula Classアドバンス」の最終カリキュラムおよび修了式を行いました。

2024年末より開催してきた「Formula Class入校選考会STEP1」および「同STEP2」を経て、選抜した受講生8名を対象に行ってきた「Formula Classアドバンス」は、今回のカリキュラムをもって延べ10日間・合計45時間に及ぶ全日程を無事に終了することができました。これもひとえにご協賛・ご協力いただきました各社の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げますとともに、ご報告させていただきます。

今後もHRS鈴鹿は世界に通用するドライバーの育成を目標に活動を続けて参ります。引き続きご理解・ご協力賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

敬具

2024年9月

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿事務局

●2024 ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿) Formula Class アドバンス最終カリキュラム・修了式 開催概要

■日時： 2024年9月3日 (火)、4日 (水)

■概要： 9月3日 (火) フリー走行 (15分間×1セット・20分間×3セット) ・計測走行 (15分間×2セット)
セット走行 (8周×2セッション)
9月4日 (水) フリー走行 (15分間×2セット) ・計測走行 (15分間×2セット)
セット走行 (10周×1セッション・12周×1セッション)
修了式 (スカラシップ候補生発表)

■参加： Principal…佐藤琢磨氏
Executive Director…中野信治氏 (9月3日のみ)
Director…佐藤浩二氏
Instructor…加藤寛規氏
HFDP Coach…武藤英紀氏
Instructor…野尻智紀氏・大津弘樹氏・岩佐歩夢氏・佐藤蓮氏
Physical Coach…鎌田貴氏
アドバンス受講生 8名



「Formula Classスカラシップ選考会」への進出者を選ぶ最後のカリキュラムということで、いつも以上に緊張感の中でコースインしていく

 TAICHI

 Arai

 EARPEACE

 EIKO
Glory of Karting

 EXGEL®
MOTORSPORT

 NGK
SPARK PLUGS

 ENDLESS
Challenge to the Future

 ODYSSEY
ULTIMATE BATTERIES

 FRONTIER
TECHNOLOGY

 Sabelt

 CCI
CO-CORPORATION

 ThreeBond

 DUNLOP

 TODA
RACING

 TONY/KARI
23 24 25 26 27 28 29

 TORAY
Toray Carbon Magic

 重夢

 BRIDGESTONE

 PETRONAS

 hit-air
HONDA RACING SYSTEM

 mooncraft

 rizoma

 WAKOS

[50音順]

約5か月間に及ぶ「Formula Classアドバンス」 そこで身につけた技術を遺憾なく発揮した最終カリキュラム

入門用マシンであるフォーミュラEnjoyの車両を使用し、運転技能を審査する「Formula Class入校選考会STEP1」(2日間)と、ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿独自のフォーミュラカーを使用し、運転適性などを審査する「同STEP2」(3日間)。2023年末より開催してきたその2つのカリキュラムを経て選抜した受講生8名は各回2日間ずつのアドバンスカリキュラムを計4回消化し、今回の第5回目「Formula Classアドバンス」の2024年度最後のカリキュラムとなりました。

初日の9月3日(火)は身体をウォームアップした後、いつものように全体ミーティングより1日がスタートしました。その後、受講生たちはメカニックが入念に整備したスクール用フォーミュラカーに乗り込み、ペダルの高さや踏みしるを確認してから実技トレーニングへ。マシンの個体差に関係なく確実なドライビングができるよう、前回カリキュラムの最終日からランダムに入れ替えたフォーミュラカーの状態を確認しながら15分間1セット、20分間3セットの合計4セットに渡ってフリー走行を実施しました。

データロガーをチェックした後、15分間による計測走行を2セットに渡って実施。さらに、8周ずつによるセット走行を2セッションに渡って行いました。

これらの走行時はスーパーフォーミュラとスーパーGTに参戦している野尻智紀氏と佐藤蓮氏、スーパーフォーミュラに参戦している岩佐歩夢氏が同時走行しました。また、佐藤琢磨Principal、中野信治Executive Director、佐藤浩二Director、加藤寛規・大津弘樹の両Instructor、武藤英紀HFDP Coachにはコース脇やピットにて受講生の走りをチェックしていただき、走行後に受講生に対してアドバイスを行っていただきました。



本番レースのシミュレーションとしてセット走行を2日間・4セッションに渡って実施

 TAICHI

 Arai

 EARPEACE

 EIKO
Glory of Karting

 EXGEL®
MOTORSPORT

 NGK
SPARK PLUGS

 ENDLESS
Challenge to the Future

 ODYSSEY
RACING BATTERIES

 FRONT DART
RACING

 Sabelt

 CCI
CO-CORPORATION

 ThreeBond

 DUNLOP

 TODA
RACING

 TONY/KART
RACING

 TORAY
Toray Carbon Magic

 重夢

 BRIDGESTONE

 PETRONAS

 hit-air

 mooncraft

 rizoma

 WAKOS

ファイナルラップまで集中力を切らすことなく、積極的なバトルが展開されたセット走行

迎えた最終日の9月4日(水)も走行前に全体ミーティングを実施。佐藤Directorによってこの日のスケジュール確認と注意点の説明が行われた後、佐藤Principalをはじめ、各Instructorから受講生に対して激励の言葉が掛けられました。

そしてよいよ最後の実技トレーニングへ。まずは初日の9月3日(火)に使った車両からランダムに入れ替えたスクール用フォーミュラカーの状態と路面の確認を行いながら15分間によるフリー走行を2セット実施。その後、タイヤを新品に交換し、15分間の計測走行を2セット行い、さらに10周と12周によるセット走行を2セッションに渡って実施しました。

1セット目の計測走行ではアタック開始直後、この日初の2分06秒台となる2分06秒931を松本拓海がマーク。その後、佐藤凜太郎が2分06秒704を記録し、さらに野尻氏が2分06秒733をマークして佐藤(凜)に続く2番手に。佐藤(凜)は2分06秒574をマークして自己ベストを更新。岩佐氏がそれを上回る2分06秒333を記録し、そのタイムが全体ベストとなりました。

2セット目の計測走行ではアタック開始早々、佐藤(凜)が2分07秒105をマーク。岩佐氏がそれを上回る2分06秒803をマークしてタイミングボードのトップに。その後、岩佐氏はセクター2、セクター3で自己ベストを更新し、トータルでは2分06秒611をマーク。岩佐氏、野尻氏、佐藤(蓮)氏の順で2セット目の計測走行を終えました。

1セット目の計測走行のベストタイム順にグリッドに並んでスタートしたセット走行1セッション目では岩佐氏と野

尻氏が良いクラッチミートを披露し、頭ひとつ抜け出すことに成功。最後尾からスタートした佐藤(蓮)氏はオープニングラップで3台をパスし、8番手まで浮上すると、2周目終了時点ではさらに順位を一つ上げ、7番手となります。4周目を終えると集団がばらけはじめ、膠着状態になりましたが、徐々に松本、新原光太郎、箕浦稜己の3台が接近し、また、終盤には佐藤(凜)、佐藤(蓮)氏、百瀬翔もバトルを展開。佐藤(凜)と佐藤(蓮)氏が何度か順位を入れ替えた末、岩佐氏、野尻氏、佐藤(蓮)氏、佐藤(凜)、百瀬、松本のオーダーでチェッカーを受けました。

2セット目の計測走行のベストタイム順にグリッドに並んでスタートしたセット走行2セッション目では新原がスタートで2台をパスして4番手まで浮上。2周目に百瀬が田中風輝をパス。百瀬は佐藤(凜)にも接近してテールtoノーズのバトルを展開。10周目には百瀬が佐藤(凜)をパスしましたが、続く11周目には佐藤(凜)が百瀬を抜くことに成功。結局、野尻氏、佐藤(蓮)氏、新原、佐藤(凜)、百瀬、田中のオーダーでチェッカーを受けました。

今回は評価基準としてレース中のベストラップではなくトータルタイムに重きを置いたこともあり、ファイナルラップの最終コーナーまで集中力を切らず、積極的に前走者をパスしようという姿が見られました。また、初日より最終日の方が路面温度が上がり、タイヤに厳しい状態だったため、1セッション目のセット走行より2セッション目を2ラップ多く設定することにより、タイヤマネジメントについて学ぶ機会としました。こうして2024年度の「Formula Classアドバンス」最終カリキュラムが無事終了しました。



最終日らしい緊張感が漂う全体ミーティング。佐藤Principalはじめ、各Instructorから激励の言葉が掛けられる

 TAICHI

 Arai

 EARPEACE

 EIKO
Glory of Karting

 EXGEL®
MOTORSPORT

 NGK
SPARK PLUGS

 ENDLESS
Challenge to the Future

 ODYSSEY
RECYCLED BATTERIES
Ultimate Power

 FRONTIER
EQUIPMENT

 Sabelt

 CCI
CO-CORPORATION

 ThreeBond

 DUNLOP

 TODA
RACING

 TONY/KARI
23 24 25 26 27 28 29

 TORAY
Toray Carbon Magic

 SUZUKI

 BRIDGESTONE

 PETRONAS

 hit-air
Hit Air

 mooncraft

 rizoma

 WAKOS



カリキュラム最終日の朝、今年から導入したスクール用オリジナルフォーミュラカー「HRS-F24」を前に集合写真撮影



国内外で活躍している現役トップドライバーから直接アドバイスを受けられるのがHRS鈴鹿の大きな特徴のひとつ





集団の中での位置の取り方、マシンの向きを変えながら前へと進ませるタイヤの使い方など、コース上の実戦で役立つ技術のみならず、様々なシチュエーションでのヒントや示唆をInstructorから教わる



修了式後の集合撮影



Honda育成ドライバーを選抜する1年間の集大成、 「Formula Classスカラシップ選考会」への進出者を決定

計測走行とセット走行を終えたその午後には「Formula Classスカラシップ選考会」への進出者発表を含む「HRS鈴鹿Formula Classアドバンス」の修了式を行いました。

まず、株式会社ホンダ・レーシング 四輪レース部 レース運営室 室長の栗田哲宏様より挨拶。その後、佐藤Principalより受講生一人ひとりに修了証書が授与されました。さらに、8名の修了生の中から優秀な成績を修めた百瀬翔、田中風輝、佐藤凜太郎、新原光太郎の4名を「Formula Classスカラシップ選考会」へと進出させることを発表しました。

これもちまして、2024年度の「HRS鈴鹿Formula Classアドバンス」までが無事終了しました。この後は選出された4名による「Formula Classスカラシップ選考会」のカリキュラム（コース使用 合計19時間）を10月8日（火）から行い、さらに高度な実戦テクニックを磨くための様々なプロ

グラムを消化した4名の中から数名を厳選し、2024年度スカラシップ（奨学制度）対象者を11月29日（金）に決定。この対象者には若手ドライバーの発掘・育成を目的とした「Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト（HFDP）」の育成ドライバーとして2025年シーズンの各種レースに参加する権利が与えられることとなります。

HRS鈴鹿出身者にはHRS鈴鹿Kart Class・Formula Classアドバンスコースの佐藤琢磨Principal（1997年度修了）は言うに及ばず、2021年シーズンからF1にレギュラー参戦している角田裕毅選手（2016年度修了）など、国内外で活躍するドライバーが数多くいます。彼らに倣って今回の受講生たちも成長していくことが期待されます。今後とも受講生たちの活動に注目いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

●佐藤琢磨Principalのコメント●

『Formula Classスカラシップ選考会への進出が決まった4名には新たなチャレンジがやってきます。これまで以上に緊張感を持ち、スカラシップ獲得を目指して頑張ってください。また、惜しくも選ばれなかった4名もここで学んだことを今後の人生に活かして欲しいと思います。挑戦をしたというアプローチが大切だと私は考えています。どんな壁が立ちただかってもここで経験したことは必ず役立ちます。次の挑戦に向かって頑張ってください』



佐藤琢磨Principalより8名の受講生に修了証書が手ずから授与された















































●「HRS鈴鹿Formulaスカラシップ選考会」進出者のコメント●

◇百瀬翔(ももせしょう) 17歳/青森県

『昨日と今日のカリキュラムの中で1回ずつ受講生の中でトップタイムをマークできたセッションがありました。まだ苦手としていることがあるため、スカラシップ選考会ではそこを課題として取り組み、克服したいと思います。そしてスカラシップを獲得したいです』

◇田中風輝(たなかふうき) 18歳/大阪府

『まずはスカラシップ選考会に進むことができ安心しました。しかし、満足できていないことが多いため、スカラシップ選考会ではそれらを必ず克服し、Instructorの方々も含めて全体のトップタイムをマークできるようになりたいと考えています。また、セット走行でもトップチェッカーを受けたいです』

◇佐藤凜太郎(さとुरんたろう) 18歳/東京都

『アドバンスコース最後の今回のカリキュラムではどのセッションでもミスがないように力を尽くしました。ユーズドタイヤでのタイムアタックなど課題があるため、スカラシップ選考会ではそれらの部分のレベルを上げたいです。そしてスカラシップを獲得し、世界で活躍できるドライバーになりたいです』

◇新原光太郎(しんばらこうたろう) 19歳/兵庫県

『スカラシップ選考会に進むことができ安心はしましたが、ここが最終目標点ではないため、喜ぶような感覚にはなっていません。この先の目標は、まずはスカラシップ選考会でしっかりと自分の力を出し切り、首席で修了することです。そしてその後はHondaを代表するようなドライバーになりたいです』



2024年度「HRS鈴鹿Formulaスカラシップ選考会」へと進出する4名
写真左から、百瀬翔、田中風輝、佐藤琢磨Principal、佐藤凜太郎、新原光太郎

